

平成29年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1470200740	事業の開始年月日	平成13年4月1日
		指定年月日	平成13年4月1日
法人名	医療法人 ゆりの会		
事業所名	グループホーム ゆり苑		
所在地	(〒221 - -802) 神奈川県神奈川区六角橋1-4-3		
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計	9名
		ユニット数	1ユニット
自己評価作成日	平成30年2月6日	評価結果 市町村受理日	平成30年4月12日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様と職員は同じ時間を過ごし、私達職員は入居者様が安心して生活を営める様支援させて頂きます。入居者様お一人お一人の思いを尊重しその方らしい時間を過ごして頂ければと思います。施設内だけではなく外出や外食を通し色々な方々と触れ合っています。又、レクリエーションなどから職員、入居者様が一体となり楽しい時間を過ごして頂いています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成30年3月14日	評価機関 評価決定日	平成30年3月30日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>【事業所の優れている点】</p> <p>◇理念に沿った利用者本位の生活支援 「利用者の自由の尊重、自己決定、自立」を理念に掲げ、利用者本位の生活を支援している。利用者が本音で思いを言え、自分で決められ、得意なことを生かして穏やかに暮らしていけるように、日々ケアに努めている。</p> <p>◇地域の一員として地域に根差した交流 事業所は商店街に立地しており、利用者は職員とともに毎日のように食材や生活用品を買いに出かけている。事業所の制服を着た職員との外出で、地域の方からは「ゆり苑」の人と認知されている。管理者は町内会の役員を引き受け、事業所の周知に努めている。</p> <p>運営推進会議では、商店街の取り組みとして「認知症カフェ」の開設のための場所の提供依頼があり、事業所として協力していく意向である。</p> <p>【事業所が工夫している点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害のある高齢利用者が作業所へ通うことに関し、職員は、利用者の希望、自己実現のために、無理のないように通える方法を先方と何度も話し合い、作業所で調理を続けることが実現している。 ・利用者全員で外出ができるように大型の介護タクシーを手配して、川崎大師での初詣やみなどみらいのイルミネーションを楽しんでいる。利用者の要望で春には鎌倉方面に遠出をする計画がある。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム ゆり苑
ユニット名	ー

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員一人一人が地域に関心を持ち入居者に出来事などを伝え共有し、催し物には参加している。	・事業所では、グループホームを自立支援の場として捉え、理念として「利用者の自由の尊重、自己決定の促し、自立支援」を掲げ、職員は日々理念を念頭に、利用者本位のケアに当たっている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な買い物、催し物、祭礼などは職員が同行し地域商店街との交流をしている。	・職員は利用者とともに食材や生活用品の購入に出かけ、地域の方との日常の触れ合いを大切にしている。 ・管理者は町内会の役員を引き受け、利用者は夏祭りや、商店街の闊市に出かけて楽しんでいる。 ・近隣の保育園児が時折訪れ、歌や折り紙で交流を楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度の運営推進会議を開催し苑での行事報告、入居者の入居状況、感染症対策、避難訓練などの報告をしている。又、出席者の方からのご意見があった場合は参考にさせて頂きサービスの向上に活かしている。	・運営推進会議は2か月ごとに町内会長、民生委員、地域包括支援センター職員が出席して開催している。 ・参加者から地域とのかかわりを強化する意味でも認知症カフェに場所の提供をしてほしいとの依頼があり、実現に向けて検討している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護の受給者が多く入居している為、区役所の生活支援課の方と連絡を密に取り実績を伝え協力関係を築いている。	・区の高齢支援課の担当者とは事業所の現状を伝え、連携を密にして顔の見える関係を築いている。 ・区の感染症やエンゼルケアの研修にはできる限り参加をしている。 ・管理者がグループホーム連絡会の役員をしており、他の事業所の管理者との交流を活発に行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	危険性がない限り玄関の施錠はしていません。身体拘束をする必要がないよう日々努力しています。	・理念の「利用者の自由の尊重」の方針より、利用者の行動の制限をしないケアを心掛けている。 ・玄関、エレベーターは施錠せず見守りで対応している。利用者が落ち着きがなく不穏のときは屋上に誘い、外の景色や外気に触れ、気分を変えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待や拘束について勉強会を開き指導を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について勉強会を開き指導を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者のご家族と契約時に読み合わせし不明な点は十分に説明し理解納得を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者、ご家族のご意見やご要望は管理者が中心となり職員と話し合い運営に反映させている。	・家族や親族の方には、できるだけ機会を作り連絡して、利用者の現状を報告している。 ・散歩や入浴時など1対1になるとき、今どうしたいか、必要なものはないかなど細かく聞き、利用者の意見・要望の把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	疑問や問題点があれば職員と話し合い意見交換し良い提案は運営に反映させている。	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月のカンファレンスを兼ねた職員会議で利用者ごとの食事やADL、日々の様子などを話し合い、ケアに生かしている。 ・職員の提案で居室ドアにプラスチックカバーを付け、夜間利用者が鍵を掛けたりしないよう改善した。 	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月に一度理事長会を開き管理者を通して報告し職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員に必要な研修を受講させている。ステップアップに繋がる研修は積極的に参加できるように情報提供している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	出来る限り集まり等に参加し名刺交換を通して情報交換をしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や職員から聞いた事を本人と直接話し困っている事や不安に思っている事を聞き一緒に考え本人にとって最善の方法を考え様務めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設に入居する事でご家族の不安や問題点をお聞きし入居者様ご本人にとって最善の方法をご家族と一緒に考える事で関係作りを深めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様やそのご家族がその時必要としているサービスを考え出来る限り対応できるよう努める。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様と職員は生活を共にする者としてお互いに向き合う様努めている。又、職員は自分から入居者様に歩み寄る事で信頼関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に対しても同様に情報を共有しあいより良い関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来る限り入居者を馴染みの場所に連れていき入居前同様の関係を壊さない様支援している。	<ul style="list-style-type: none"> ・作業所に通う高齢利用者の送迎に関し、馴染みの友達やできる仕事がある間は極力長く通えるようにと、先方と話し合い、支援している。 ・歌の好きな方にはリビングで曲を流して一緒に歌い、編み物、洋裁など利用者の特技を生かせるように支援している。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事やレクリエーションを通し同じ話題を持ち職員、入居者に限らず気軽に話せる様な環境を作っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移っても必要に応じてご本人やご家族共、連絡を取れる様にしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者や職員の言葉に耳を傾け日常生活から何を思っているのか毎日確認しながら生活して頂いている。	<ul style="list-style-type: none"> ・職員は日常生活の中で、利用者の声に耳を傾け、利用者が本音で言える関係づくりを心掛けている。 ・「できること、できないこと、少し時間を要すること」を利用者に分かりやすく伝え、できるだけ利用者の思いが実現できる支援に努めている。 	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様が以前どの様な生活をしてきたのか近親者から情報を頂き入居者様の生活に生かすよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員の配置を手厚くし入居者様の生活状況について身体面、精神面の両面から把握する様努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族、職員、主治医、訪問看護師、訪問歯科医など色々な方から意見や助言、指導を頂きご本人と話し合いの下に介護計画を作成しています。	・利用者の希望を踏まえ、毎月のカンファレンスで利用者の様子や、ADLの変化、医療情報などを話し合い、介護計画に反映してケアの統一を図っている。 ・モニタリングは3か月、アセスメントは6か月ごと、問題のない方は1年ごとに行っている。	利用者ごとの介護計画にそったケアの記録は、カンファレンスやモニタリングの際に参考となります。計画と連動した介護記録の作成が望まれます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	月に一度のミーティングや必要に応じて会議を開き職員同士意見を出し合いながら情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	以前より事業所の多機能化を目指しているが今だ実現化に至っておらず時間を要するのが現状である。職員も充実してきてはいるが実現化にはまだ時間がかかりそうである。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の施設、自治会、商店、保育園など地域の方々に支援を頂きながら楽しめる様にしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望を大切に以前よりお世話になっている医療機関と情報を共有しながら適切な医療を受けられる様に支援している。	・入居時に全員から隣接の設置法人の協力医での受診了解を得ている。協力医（内科、皮膚科）の往診のほか、急な治療や診察が必要な時には、職員が付き添い受診ができる環境にある。訪問歯科医が毎週必要な治療や口腔ケアに訪れている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は日常生活の中で気づいた事や感じた事を記録し訪問看護師や医師に伝え相談しその時の状況にあった診察を受けられる様支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医、入院先医師、弊法人医師、看護師、職員が一体となり情報を共有し早期退院出来るよう支援し再入居に常時備えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時よりご本人、ご家族と話し合い希望に沿って重度化した時の終末期の対応が出来る様取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ・入居時に、事業所の方針として設備面から終末期対応ができないことを利用者や家族に伝えている。 ・重度化する段階を踏まえ、その都度医師や看護師を交え、利用者にとって最良の方向を家族に説明している。 	重度化や急変に備えたマニュアルの整備を行うとともに、利用者・家族に重度化した際の事業所の対応方針を明文化して、入居時に説明することが求められます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が責任感と意識を高める為避難訓練に加えAEDの使用方法、通報や連絡の取り方など急変時にも対応できるように定期的に訓練を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	神奈川消防署や地元消防団のご尽力を頂き地域との連携協力体制を築く事が出来ている。	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は夜間想定を含め、年2回避難訓練を行い、うち1回は消防署立ち合いで実施している。利用者も参加した訓練では、消火器やAEDの使い方を学んでいる。 ・地域の方が毎回参加し、地域の消防団とは緊急時の協定を取り交わしている。 	最低3日分の食料や飲料水の備蓄やコンロ、保温シート、簡易トイレなどの備品を整備するとともに、リストを作成し管理することが望まれます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は入居者様一人一人の生活状況を把握し人格を尊重しプライバシーを損ねないように注意しながら対応するように心がけている。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の人格尊重やプライバシーを損ねない対応を常に考え、接遇についてミーティングで話し合っている。 ・愛称で呼ばれることを希望する利用者以外、名前は尊敬の気持ちをこめて苗字で呼んでいる。 	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様生活をしていく中で自分自身の希望や思いを伝えられるような環境づくりを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人お一人のペースを崩さない様に注意し職員の仕事を優先するのではなく入居者様の希望を優先する様職員に意識付けする様にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様ご自身が身に着けた物是否定せず褒める事で意欲が出る様支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は入居者様の好みを把握し高齢者向きの食事に捉われず安全で豊かな食事を提供している。又、準備や片付けなど入居者様にも手伝いをいただいている。	<ul style="list-style-type: none"> ・職員が、近隣商店街で食材を購入し調理している。体調の具合で別メニューを提供することもある。 ・事業所の夏祭りではサンマの塩焼きや焼きそばを提供している。 ・利用者が食事の企画や調理に参加し、職員と一緒に楽しんでいる。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様お一人お一人の食事の摂取量や水分の摂取量を毎日記録し必要に応じて個別に支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。週に1度訪問歯科医の先生よりアドバイスを頂き必要に応じて職員がチェックし介助するようにしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄への支援、配慮はできている。排泄への自立支援は重要なポイントとして支援を行っている。	・日中は多くの利用者が布パンツを使用し、定期的な声掛け・誘導でトイレでの排泄を支援している。 ・できるだけ自然の排便を心掛け、水分や乳酸菌などを摂取したり、階段昇降や散歩などで体を動かす工夫をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	消化の良い便通に繋がるような食事を提供出来るように心がけ水分の補給や適度な運動を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入居者様が楽しめる様支援はしているが曜日や時間を限定してしまっているのが現状である。又、時に入浴剤を使い色や香りを楽しんで頂いています。	・週2回の入浴を基本としている。入浴を面倒がる利用者には医師のアドバイスを伝えたり、高血圧の人には「今日は血圧が低いから入浴しよう」などと声掛けし誘導している。 ・ゆず湯や菖蒲湯など季節の香りを楽しむ工夫をしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯は決まっているが他の入居者様に迷惑を掛けない様気遣いの下に自由に過ごして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は入居者様が服薬している薬を把握し症状に変化があった場合は主治医に相談し再確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人で自分の生活を組み立てる事が出来ない方には役割を持って頂きメリハリのある生活を送って頂ける様支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出については出来る限りの支援を行っている。第一に安全を考え外出を希望される方には家族や職員を介助者として同行するよう支援している。	<ul style="list-style-type: none"> ・天の気の良い日は買い物を兼ねて近隣商店街を散歩や、屋上で富士山を見ながら外気浴をしている。 ・川崎大師の初詣やみなとみらいのイルミネーション見学など利用者も企画に加わり、介護タクシーを使い職員と共に外出を楽しんでいる。 	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分自身で管理できる方のみ所持して頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望があれば殆どの場合支援出来ている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間環境に於いては特に工夫はしていないが入居者様、職員が共に居心地の良い空間になる様心掛けている。	<ul style="list-style-type: none"> ・リビングは自然の採光で明るく、エアコン・加湿器・空気清浄機の利用に加え換気にも留意し、快適な環境を保っている。 ・壁面には行事の写真や利用者全員の「2018年の抱負」を掲示し、居心地よく過ごせる場となっている。 	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホーム自体が狭いスペースを利用した建物である為一人になれる場所は自室しかなくお互いの部屋を行き来して工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人、ご家族と話し合い出来る限りご本人の好みにあった居室作りをしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・ベッド、クローゼット、エアコン、障子、防炎カーテンが設置され、希望者はテレビや固定電話を持ち込み、これまでの生活が継続できるよう配慮している。 ・夜間出歩く利用者にはドアと廊下にセンサーを設置している。 	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	使い勝手の悪いハード面を有する施設の為入居者様の安全第一に考え声掛けや見守りをして安心して生活が送れる様支援している。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム ゆり苑

作成日 平成30年3月30日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	26	利用者ごとの介護計画に沿ったケアの記録。計画と連動した介護記録の作成。	記録の仕方の見直し	利用者ごとに介護計画をケアファイルに添付し、職員が常時確認できるようにし、計画と連動した記録をする。	3か月
2	33	重度化や急変に備えたマニュアルの作成、整備。利用者、家族に対する対応方針の説明。	施設独自のマニュアルを作成	研修等に参加し職員全員で共有し施設独自のマニュアルをつくる。又、入居時には施設の方針をご本人や家族に説明しご理解を頂く。	3か月
3	35	備蓄品の確保、整備	リストを作り、不足している物を確認	現在有る物、足りないものをチェックし整備する。災害担当を決め最低限の備蓄品を確保する。	3か月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。